

セネガル「JICA基金事業:スポーツを通じた障害者の エンパワメントと社会参加促進活動」

2022年11月～2023年6月



スペシャルオリンピックス・ティエス支部での
ボッチャ体験会

背景/課題

2013年の国勢調査によると、セネガルの障害者は80万人/全人口1,350万人、視覚障害と肢体不自由が各20万人であるが、実際はこの統計以上であり、全体の把握が難しい。障害者は、就労、福祉、教育、その他のあらゆる民間サービスへのアクセスが困難な状況にある。

目的

- スポーツをきっかけとした障害課題に取り組む人的資本の強化
- 社会と障害者の繋がりを支える地域共生コミュニティの開発による障害者の社会参加促進と障害インクルーシブな社会開発の支援

活動内容

- 聾学校、スペシャルオリンピックス・ティエス支部、肢体不自由者の通所施設でボッチャ体験会やファシリテーター育成研修、国立盲学校でブラインドフットボールの定期練習やコート環境整備、コーチ育成研修開催、全国大会運営指導、活動関係者向けオンライン障害平等研修等の実施
- ブラインドフットボール元日本代表選手で視覚障害者の落合啓士氏と共に、ティエス市内のアクセシビリティを調査。また、セネガル視覚障害者との対話を通じた実態把握も実施

成果

- 肢体不自由、知的障害、聴覚障害等の様々な種別で約100名が体験。体験会開催やファシリテートできる障害当事者を9名育成。資格保有者はファシリテートだけではなく、インクルーシブなコミュニティを作る考えが養われ、チーム分け、声掛け、空間作り等に習得した知識を活用中である。
- 女性を含む6名のコーチが育成されたことで女子選手が増加(国立盲学校女子生徒の17%が参加)し、2015年以来の全国大会が開催された。
- 障害者同士の対話を通じて、視覚障害者の社会参加に向けた課題およびブラインドフットボール普及に関する課題を発見した。